保護者の皆様へ

令和３年３月１６日
丹波市立柏原中学校長　大槻芳裕

令和２年度「学校評価」結果の報告について

先般、保護者の皆様には、「学校評価アンケート」にご協力いただきありがとうございました。このほど、そのアンケートの結果および生徒アンケートの結果をもとに、以下の通り、学校自己評価を行いました。また、学校運営協議会委員様により、学校関係者評価も実施していただきました。その結果をお知らせいたします。この結果を踏まえ、来年度さらに保護者・地域の皆様に信頼され、地域・保護者に開かれた学校づくりに取り組んでまいります。

○目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	本年度の重点目標
《学校教育目標》 『心豊かにたくましく、自立して生きる生徒の育成』～学び合い、支え合い、鍛え合う～ 《めざす生徒像》 ①学んだことを活かせる生徒 ②自治的な集団づくりを通して成長する生徒 ③目標をもって努力する生徒	①基礎基本の学力を定着させ、学んだことを活用する力を育てる。 ②自治活動を高め、人との関係づくりを通して自立する個を育てる。 ③目標をもって生徒が取り組み、それを支援する環境を整える。

○自己評価　　○学校関係者評価

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	取り組み状況と改善の方策	自己評価の各観点に対する評価
学校運営	学校経営	家庭・地域との連携と信頼される学校づくり	C	・学校での生徒の様子や行事などを学校だより、学年・学級通信、ホームページ、学校安心安全メールを通して、ていねいに家庭や地域に発信していく。ホームページの更新が滞ることがあった。 ・生徒の気になる様子やその時々の問題、学校の出来事を保護者に伝え、保護者と共有しながら生徒指導をおこなう。保護者との連携を深め、相談しやすい雰囲気をつくる。 ・地域ボランティア活動に、積極的な参加を呼びかけたり、ボランティア活動に取り組ませたりしたかったがコロナ禍により実施することができなかった。	・地域連携についてはコロナ禍においてやむを得ない状況だったと思う。今後は with コロナの中で取り組みを考えていく必要がある。 ・ホームページの更新が滞ることがないようにタイムリーな発信をお願いしたい。 ・一昨年より「地域へ生徒を出したい。」という学校の熱意をとても感じている。地域としてもありがたい。
		業務改善の推進	C	・生徒一人一人に対する教育の質の維持・向上、教職員一人一人の能力向上を目的とした「働き方改革」を推進する。 ・部活動は、これまでの週2日以上の休養日や「ノー部活デー」を設定しながら将来的な部活動の在り方について協議していく。 ・教職員が心身ともに健康に働けるように、タイムマネジメントを中心に意識改革をしながら超過勤務時間の縮減と定時退勤日に可能な限り定時で退庁できるように取り組む。	・先生方の意識改革で改革できる部分と構造的な部分とがあると思う。先生方の心身の健康は生徒にも影響を及ぼす重要な課題である。部活動についてはノー部活デーや朝練の持ち方について学校で検討してほしい。
	生徒指導	生徒自らが考え行動し評価する自治活動の　推進	B	・昨年度と比較するとあいさつの声が小さくなっていると感じる。生徒自身は約95％の生徒があいさつはできていると考えている。 ・自治活動（生徒会、委員会、学級活動）に積極的に取り組んでいると回答する生徒の割合が80%以上をめざしたが、73％であった。コロナ禍により制約を受けながらの自治活動に影響している可能性がある。 ・教師が常に生徒の活動場所にいて、タイミングよくほめる、励ますなどの評価言を行うことにより、生徒の意欲を高める。	・あいさつは内面から出てくるものであり、生徒自身が主体的に生活できていれば自ずとあいさつもしっかりすると思う。どのような学校生活をさせられるかが重要である。 ・目を見てしっかりあいさつしてくれる子とそうでない子の差を感じる。学校だけでなく各家庭での声掛けも必要である。
		全職員の共通理解による組織的な生徒指導の推進	B	・いじめを自らの問題として受け止め、自分たちでできることを主体的に考えて行動できる力の育成を通して「いじめを許さない学校風土」をつくる。いじめはどんなことがあっても許されないと答えた生徒は94％であった。教師は市いじめアンケートや生活ノートで個々の生徒の実態を把握し、いじめの未然防止、早期発見に努める。 ・学校のルールや社会のマナーが守れる生徒の育成に努める。97％の生徒が規則を守っていると答えている。 ・教師は生徒の内面理解に努め、共通理解を図って不登校生徒を出さない取組を推進する。	・教師間で指導方針や子ども理解についてより良く共通理解を図る必要があるのではないかと思う。 ・いじめや不登校への対応や個人を認めるなどの教育はよくされていると感じる。 ・交通マナーやあいさつをよくしてくれる。学校が落ち着いているのだろうなあと安心している。
教育課程	学習指導	学力向上のためのわかる・できる授業づくり	B	・授業のユニバーサルデザイン化を推進し、一人一人の生徒の困り感に対応した指導を全教職員で行う。 ・どの授業もペアトークやグループトーク、教え合い、小グループ学習などの効果的な学び合いと生徒が話法を使って発言する機会を多く取り入れたり、子どものやる気を奮起させる教師の「評価言」を実践したりしながら指導する。 ・学習規律「柏中スタイル（学習の構え）」をもとに安心して授業に集中できる環境づくりを行う。 ・すべての教師がICT機器を活用しながら授業を行えるように研修を推進する。	・柏中スタイルはとても良いと感じた。すべての授業ですべての先生が行えるようにする必要がある。 ・手法としてのペアトークや学び合いはスタイルだけでは学力向上に結びつかないので、それが本質を突くものであり、思考の深まりにつながるように指導をしてほしい。 ・教科によっては習熟度別に指導することで一人一人の生徒の理解が深まると思う。
		家庭学習習慣の定着を図る取組	C	・生徒が自主的に家庭学習をしていると答えた保護者は約50％である。出した宿題を忘れずにしている生徒は80％である。宿題を継続してさせながら自主的な学習ができるように指導することにより家庭学習の定着を図る必要がある。 ・基礎学力の定着と家庭学習の習慣化のために「学習タイム」を設定した。「学習タイム」で、出された課題に取り組ませ、それを支援することにより自分で学習する力を身に着けさせる。	・基本的に家庭の事は保護者側に責任があることだと思うが、宿題を出してその提出状況をチェックするだけではなく、保護者と連携しながら、個々の生徒へ指導することが大切である。 ・最近はスマホを持つ生徒も多く家庭学習に関しては学校と家庭の連携が必要だと思われる。
課題教育	特別支援教育	個に応じた計画的な特別支援教育の推進	A	・特別支援委員会や職員会議等で、生徒の情報交換をしっかり行い、全教職員で組織的に支援しながらインクルーシブ教育を推進する。 ・「合理的配慮」に基づく支援計画や指導計画を作成し、計画的な支援を行う。 ・1年時から卒業後の進路を見据え、3年間で計画的な進路指導を行う。	・特別支援学級や通級の生徒についてはよく支援されている。通常学級で配慮のいる生徒についても特別支援教育の考え方で一人一人の個に応じた指導を推進していくことが大切である。

※領域（３領域）　　学校運営、教育課程、課題教育

※評価の観点例（網羅するのではなく、各学校で観点を絞る）

領域	観点例
学校運営	学校経営、組織運営、生徒指導、教職員の育成、危機管理、安全管理、保護者・地域住民との連携、施設設備　　等
教育課程	学習指導、道徳教育、総合的な学習の時間、指導方法の工夫改善　　等
課題教育	進路指導、特別支援教育、人権教育、福祉教育、情報教育、食育、防災教育、環境教育　等

※達成状況　　Ａ：優れている　　Ｂ：おおむね良好　　Ｃ：やや改善　　Ｄ：要改善

自己評価の実施方法についての評価

・生徒、保護者、教職員のアンケートをとり自己評価だけではなく、これを基に課題と成果を検討、考察し次年度に生かしてほしい。また、生徒、保護者、教職員の立場からアンケートをとり分析しているので良いと思うが前年度との比較もできるようにするとより具体的になると思う。

学校関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について

１　一人ひとりの生徒に対して個別の指導を充実させることにより学力の向上をめざす。
２　柏中スタイルを継続して行い、生徒が自ら学んだり、それを深めたりできるように指導する。
３　ＩＣＴ機器の活用を様々な学校教育活動で推進する。
４　生徒が中心となった自治活動をより積極的に行い、校内はもちろん地域に向けた取組を推進する。
５　教職員一人一人の能力向上を図りながら、学校全体として効率的に「働き方改革」を行う。

令和２年３月１６日

学校名　　丹波市立柏原中学校
校長名　　大槻　芳裕

学校関係者評価のまとめ

・生徒の健やかな成長のために保護者・地域・学校がより良く連携しながら、協力していくことが求められている。学校運営協議会はその一助として保護者、地域、学校を結び付ける機能を果たしていくことが大切である。次年度以降、生徒を中心において様々な取組が具体的に行えるようにしていきたい。